

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2025年8月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全般	• • • 3
2 各軍等	• • • 4
3 対台湾動向	• • • 11
4 対日動向	• • • 13
5 南シナ海動向	• • • 21
6 軍事交流	• • • 24
参考文献	• • • 25

中国軍事動向月報：2025年8月

2025.9.5

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全般

8月は、陸軍と民間RORO船の大規模な共同訓練が確認され、着上陸訓練の段階を上昇させている状況が認められた。また、着上陸作戦の際、RORO船と接続して使用できる桟橋船3隻が東部戦区玉環島海軍基地に停泊しているのが確認された。海上での接続試験が終了し、東部戦区に引き渡された可能性がある。

海軍では、中露共同演習「海上聯合-2025」と同演習に引き続き中露共同パトロールが実施された。また、露側の報道のみであるが、初の潜水艦共同パトロールの実施が公表された。露潜水艦は中国艦に比し静粛性が高いため音響情報収集能力が高い。今パトロールを機に中露軍事協力が海上・空中に加え海中にも拡大し、恒常的な情報共有の枠組みが整えられれば、第1列島線内の領域拒否を目指す中国の日米艦艇に対する情報収集・識別能力向上に資する可能性がある。

台湾周辺においては顕著な活動は確認されなかったが、東沙海域において7月に引き続き、3回の海警船の活動の他、16日の漁解禁を利用し、中国漁船と海警船が連携して台湾側の対応状況を偵察した可能性のある活動も確認され、禁漁期間にはいる来年5月までは漁船の活動を利用した中国海警の法執行活動などが活発化する可能性がある。

日本周辺では、尖閣諸島周辺において、16日の禁漁期間明け前後に尖閣北西方の接続水域外で1~2隻の増援と見られる海警船の活動が確認された。また、接続水域内でも常時4隻態勢を維持し、昨年に比し中国漁船に対する取締りを強化できる態勢をとった。悪化する中国経済や9月3日の重要な国家行事である中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年記念大会を前に、日本との緊張が高まるのを避けた可能性がある。

南シナ海においては、引き続きフィリピン（以下、比）への威圧を継続したが、スカボロー礁周辺で比巡視船に対応していた中国海軍と中国海警船が衝突する事案が発生した。死傷者が出ている可能性が大きいにも拘らず、中国側からは現時点では衝突については一切コメントが公表されていない。国家の重要な行事前に、比にしてやられたとの印象を与える不祥事を国内に対して隠蔽しようとしている可能性がある。

2 各軍等

(1) 全般

○ 高官視察¹

チベット自治区成立 60 周年祝賀活動に参加するためラサを訪問した習近平中央軍事委員会主席は 8 月 20 日、ラサ駐屯部隊の大佐以上の幹部、一部の模範隊員及び事務官を接見した。

張昇民・中央軍委規律検査委員会書記が同行した。

習近平とラサ駐屯部隊の記念撮影



(出典：CCTV新闻联播20250820に筆者が追記)

【コメント】

習近平中央軍事委員会主席の部隊視察には 2 名いる中央軍委副主席のどちらかが同行するのが慣例であったが、本年 3 月の駐雲南部隊視察時から同行が認められず、今回も中央軍委規律検査委員会書記である張升民上将が同行した。

副主席の何衛東上将の動向報道が 4 月以降途絶えており、その影響の可能性がある。また、チベット軍区司令員である王凱中将が出席しておらず、政治委員の袁紅剛中将が習近平の隣で記念撮影をしていることから、高官への反腐敗取締りが継続している可能性がある。

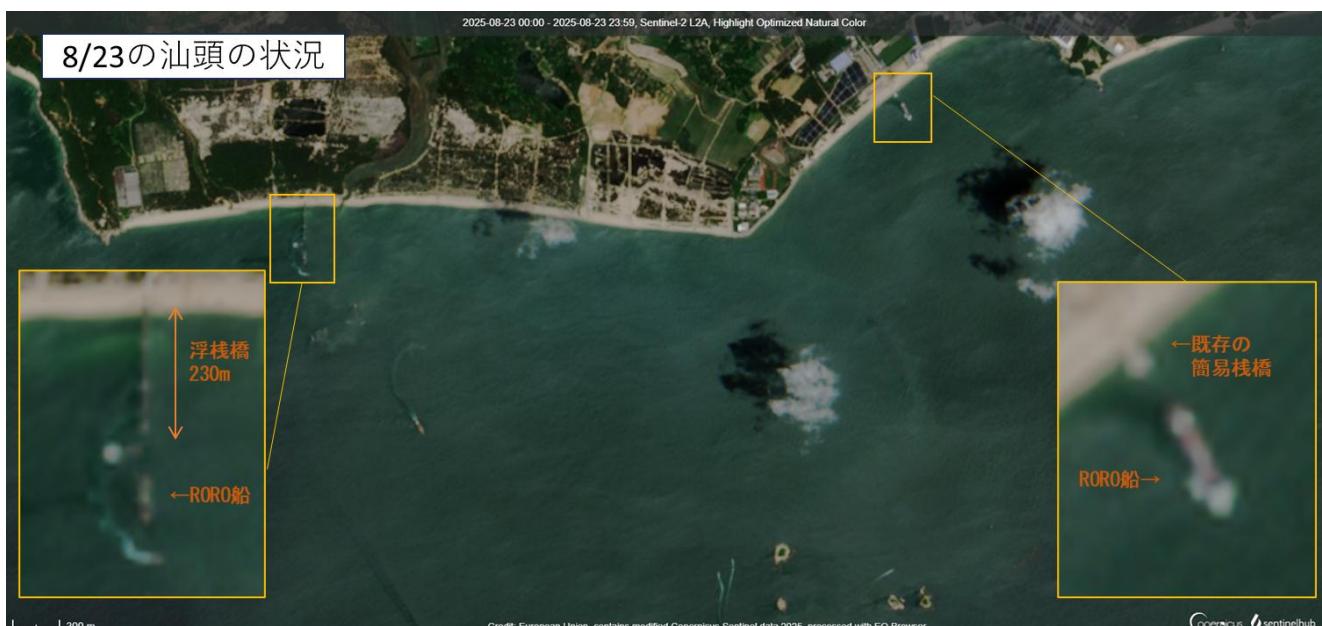
(2) 陸軍

○ 民間船船を使用した着上陸訓練

8月17日以降、7隻の民間RORO船が大連港等から南下し、陸軍の着上陸訓練場がある汕頭及び東山島周辺海域で活動したことがAISで確認された。

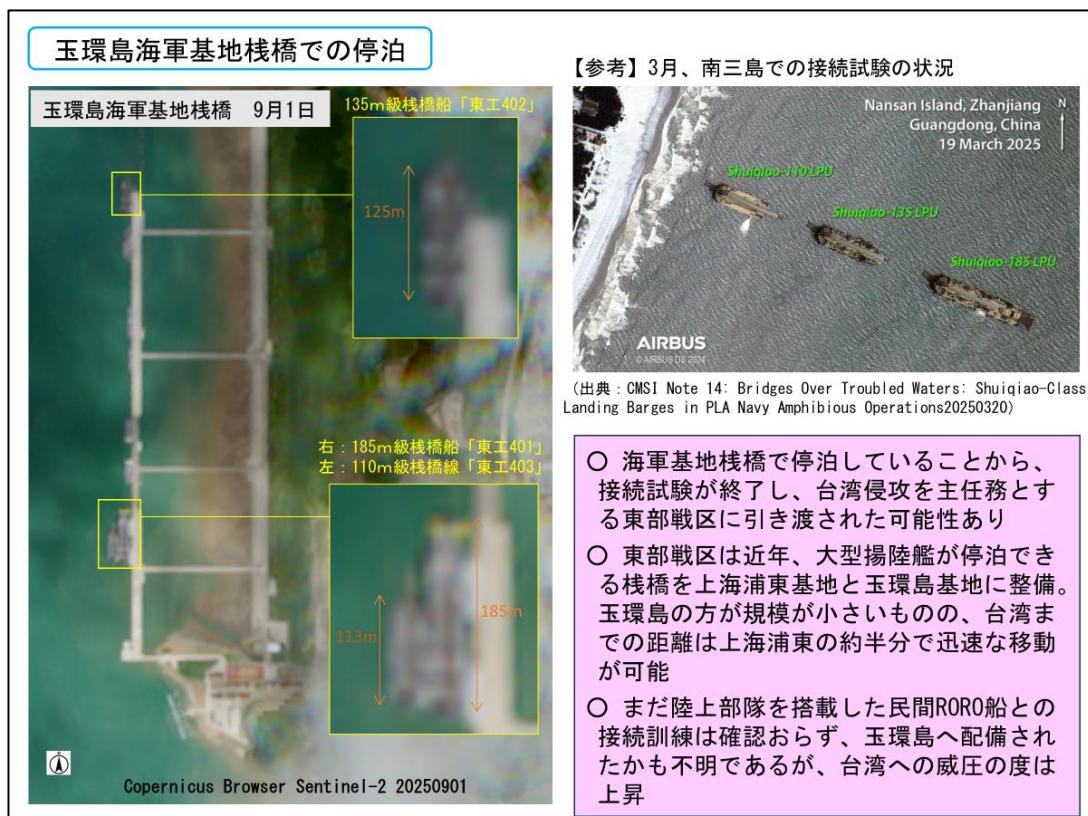
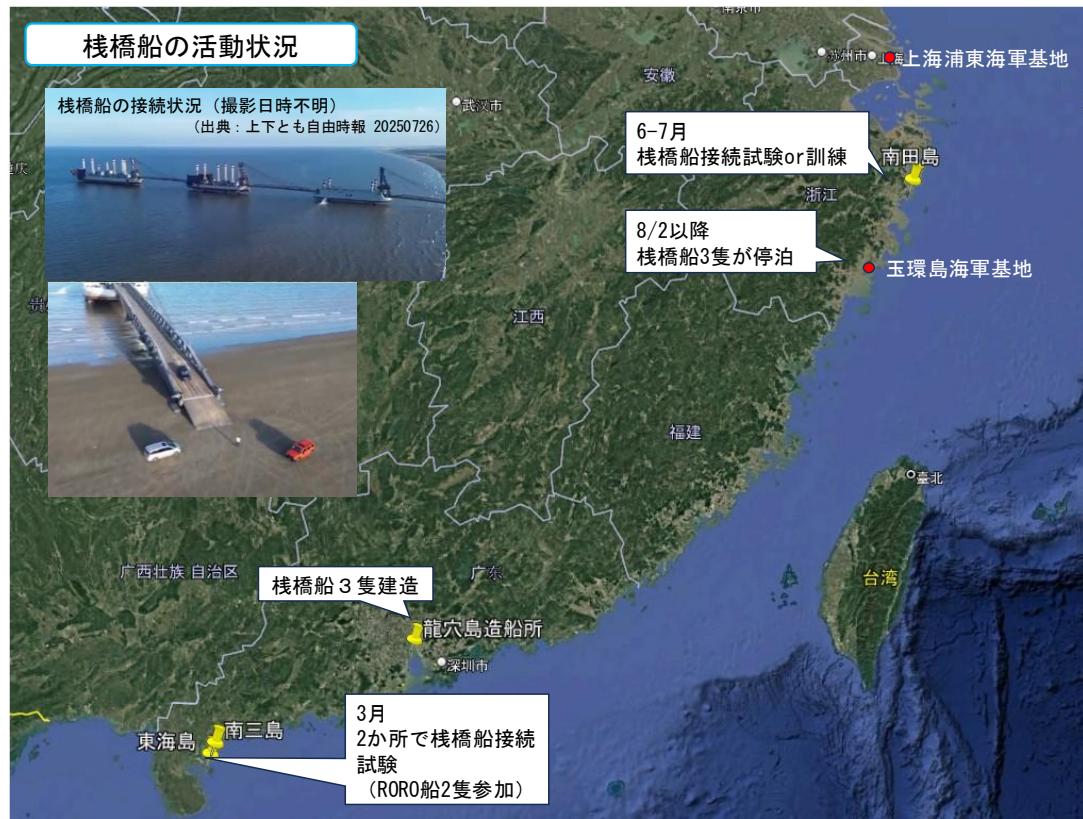
また、23日の衛星画像で汕頭沖で浮桟橋とRORO船（可能性）が確認されており、RORO船に搭載した部隊を浮桟橋等を使用し、上陸させる訓練を実施した可能性がある。

民間船舶7隻の航跡（8/17～24）



○ 桟橋船の玉環島への移動

7月に東部戦区内の南田島で接続が確認されていた桟橋船3隻が8月2日以降、同じく東部戦区内の玉環島海軍基地の桟橋に停泊しているのが確認された。



(3) 海軍

○ ユーシエン級揚陸艦 4番艦の就役

- 8月1日、ユーシエン級4番艦（075型強襲揚陸艦）「湖北」（艦番号34）の南部戦区海軍隸下での訓練参加が公式に初報道
- 4番艦は同級1番艦「海南」（31）等と南シナ海で編隊訓練を実施

資料源（写真共）：央視新聞20250801
https://content-static.cctvnews.cctv.com/snow-book/index.html?item_id=13322476790659757645&t=1754020275246&toc_style_id=feeds_default&share_to=copy_url&track_id=9e07ebbe-7de1-411e-bc7a-7b1eb41fe9f5

ユーシエン級揚陸艦4番艦「湖北」



ユーシエン級揚陸艦 1番艦と4番艦の編隊訓練



- ユーシエン級は最大排水量4万tの強襲揚陸艦であり、人員×800、AFV×60、ヘリ×28搭載可能（ミリバ 2025）
- 既に「海南」が南部戦区海軍に、「広西」（32）と「安徽」（33）が東部戦区海軍に就役
- 「湖北」は2023年12月に進水、就役日は不明であるが、既に戦区内他艦艇と編隊訓練を実施
- 南部戦区は南シナ海を主担当、台湾を副担当（主担当は東部戦区）とする戦区であり、南シナ海での領有権係争国への威圧及び台湾侵攻時の着上陸能力が強化

○ 中露海上共同演習

中露海軍共同演習「海上聯合-2025」

- 時期：8/1-5
- 場所：ウラジオストック軍港及び周辺
- テーマ：戦略シーレーンの共同防護・西太平洋の安全保障上の脅威への共同対処
- 海上フェーズ：8/3-5
機動・潜水艦救難・対潜戦・ミサイル防衛・対海上戦闘・泊地防御・海上補給等
- 参加艦艇
 - ◇ 中：ダカイ級潜水艦救難艦「西湖」（841/北部戦区）
ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦2隻「紹興」（134/東部戦区）、「烏魯木齊」（118/北）
フチ級補給艦「千島湖」（886/東）
キロ改級潜水艦（露側報道のみ）
 - ◇ 露：救難艦「イーゴリー・ベリウソフ」
ウダロイ級駆逐艦「アドミラル・トリップツ」
ステレグシチー級フリゲート「グロムキー」（335）
キロ改級潜水艦「ヴォルホフ」

キロ級潜水艦：

ウラジオストック軍港見学の為の「長城210号艇」の幟を掲示



- キロ級は露から12隻購入した通常動力型潜水艦、既に2隻は退役。長城210号は改良型で東部戦区所属
- 中国の潜水艦の中露共同演習参加が報道されるのは初だが、中国側からの報道はなし。他の海上艦艇4隻は対馬海峡通過を防衛省が公表
⇒ 潜水艦の活動は通常公表せず、また探知する側もその能力を秘匿するために公表しないが、キロ改級潜水艦は対馬海峡を潜航してウラジオストックに入港した可能性

- 2025年初めに就役した新型総合救援船、ダカイ級潜水救難艦が初参加
- 8/3、遭難した露潜水艦をダカイ級が捜索・発見、救難艇が潜水し、ドッキング、救助という訓練を実施
- 露報道では、中潜水艦への露救難艇による救助及び共同で日本海で敵潜水艦を撃沈する訓練も実施

ダカイ級潜水救難艦



ダカイ級潜水救難艦搭載の深海潜水救難艇



ダカイ級潜水救難艦の潜水救難艇を見学する露海軍



ダカイ級潜水救難艦艦橋を見学する露海軍



これまでの「海上聯合」実施状況

注：「」内は演習のテーマ（確認できたもののみ記述）

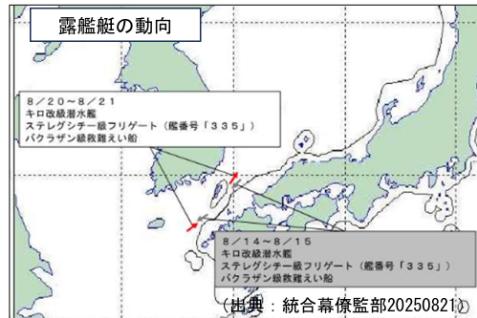
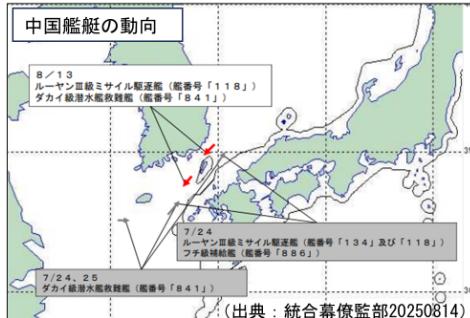
	主催	場所	内容等
2012	中	黄海	「共同防衛・シーレン防衛」
2013	露	日本海	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中国海軍初の海外大規模派遣訓練 ○ 通信・補給・海象等の課題
2014	中	東シナ海	<ul style="list-style-type: none"> ○ 泊地防衛を初演練 ○ 初の訓練艦艇全て中露混成
2015	露	地中海	「遠海航行安全擁護」
		日本海	着上陸を初演練
2016	中	南シナ海	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初の対抗形式、島嶼奪取を演練
2017	露	バルト海	「共同救援と海上経済活動安全擁護」
		日本海・ホーツカ海	潜水艦救難を初演練
2019	中	黄海	「海上共同防衛行動」
2021	露	日本海	<ul style="list-style-type: none"> 「海上戦略レーンの安全擁護」 ○ 掃海を初演練 ○ 演習に連接し、共同パトロール開始
2022	中	東シナ海	<ul style="list-style-type: none"> 「共同海上安全擁護」 ○ 封鎖・臨検・拿捕を初演練 ○ 事前調整なく、直接演習海域で合流
2024	中	南シナ海	「海上安全脅威への共同対処」
2025	露	日本海	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「戦略シーレーンの共同防護・西太平洋の安全保障上の脅威への共同対処」 ○ 事後、初の潜水艦共同パトロール

- 訓練海域・内容は主催国の意向が反映しており、今回は露が潜水艦参加の訓練を希望した可能性
- トランプ米大統領は8/1、原子力潜水艦2隻を適切な海域に配備と発表。演習内容等は発表以前に決まっていたものの、公表によりカラ什情勢に連関する米軍動向等に対し、中露共同で牽制した可能性

○ 中露海軍共同パトロール

第6回中露海軍共同パトロール(潜水艦グループ)

- 海上聯合に参加していた中国北部戦区のルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦「烏魯木齊」(118)とダカイ級潜水艦救難艦「西湖」(841)は8月13日、対馬海峡を南下 (統合幕僚監部20250814)
- 海上聯合に参加していた露ステレグシチー級フリゲート「グロムキー」(335)、キロ改級潜水艦、バクラザン級救難曳船は8月14日、対馬海峡を南下し、20日に同海峡を北上 (統合幕僚監部20250814)
- 露潜水艦「ヴォルホフ」と中国潜水艦が8月初旬から日本海と東シナ海の2000カイ以上の海域で共同パトロールを実施。「グロムキー」と救難曳船「フォチー・クルリロフ」が同行。これはアジア太平洋地域での初の潜水艦共同パトロールであると8月27日に報道 (TASS20250827)



- 海上聯合後に中露潜水艦が自国の救難艦等の同行の下、日本海及び東シナ海で初の共同パトロールを実施。期間は水上艦艇グループと同様に8/6~20頃、約2週間の可能性
- 潜水艦は通常単艦行動し海中での連絡は位置暴露の恐れがあるため、共同パトロールは予め哨区・時間を調整してそれぞれ実施し、収集した海洋・音響情報等を事後共有した可能性
- 露潜水艦は中国艦に比し静肅性が高いため音響情報収集能力が高い。今パトロールを機に中露軍事協力が海上・空中に加え海中にも拡大し、恒常的な情報共有の枠組みが整えられれば、第1列島線内の領域拒否を目指す中国の日米艦艇に対する情報収集・識別能力向上に資する可能性がある

第6回中露海軍共同パトロール(水上艦艇グループ)

- 時期：8/6-20 (15日間、海上聯合-2025に引き続き実施)
- 場所：西太平洋某海域
- 演習項目：交互又は共同指揮による共同捜索・補給・護衛・防空
- 参加艦艇
 - △ 中：ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦2隻「紹興」(134/東) フチ級補給艦「千島湖」(886/東)
 - △ 露：ウダロイ級駆逐艦「アドミラル・トリヅツ」



(出典：解放軍報20250821)

これまでの共同パトロールの状況（水上艦艇）

回	年月	中艦艇	露艦艇
1	2021. 10	DDG × 2 FFG × 2 AOR × 1	DD × 2 FFG × 1 AGM × 1
2	2022. 9-10	DDG × 1 FFG × 1 AOR × 1	DD × 1 FFG × 3 AOR × 1
3	2023. 7-8	DDG × 2 FFG × 2 AOR × 1	DD × 1 FFG × 3 AOR × 1
4	2024. 7	DDG × 1 FFG × 1 AOR × 1	FFG × 1 AOR × 1
5	2024. 10	DDG × 2 FFG × 1 AOR × 1	DD × 2 AOR × 1
6	2025. 8	DDG × 1 AOR × 1	DD × 1

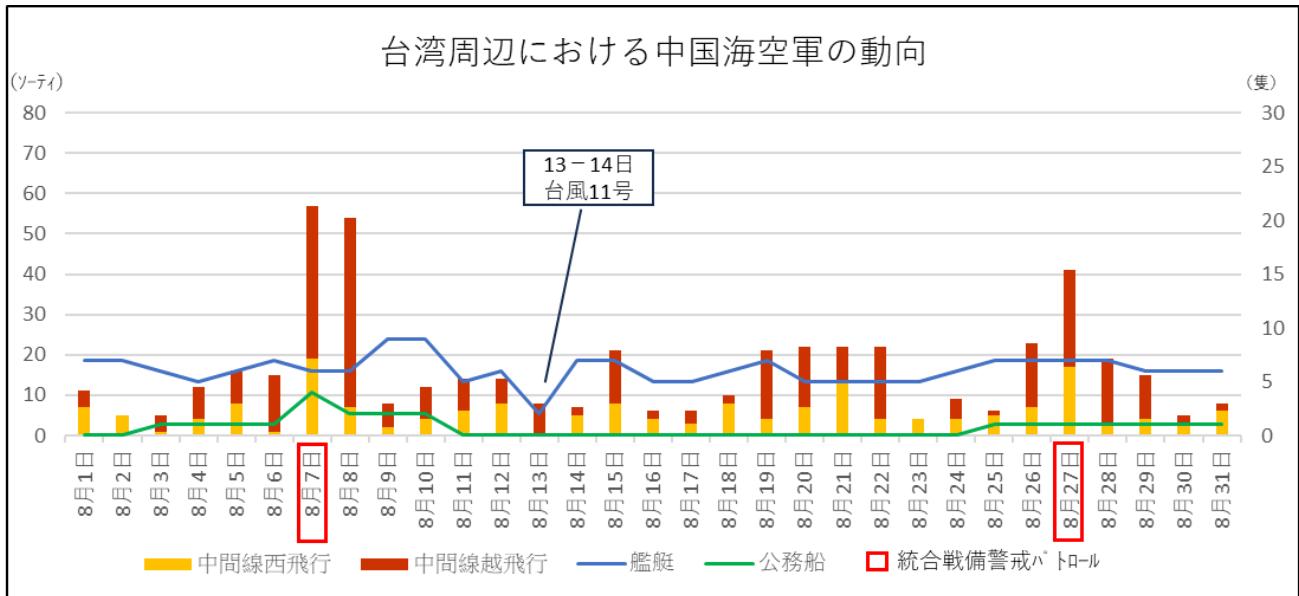
DDG:ミサイル駆逐艦、DD:駆逐艦、FFG:フリゲート、
AOR:補給輸送艦、AGM:ミサイル観測支援艦

- これまでの共同パトロールで参加艦艇の規模は最小であったが、潜水艦グループ（中露各3隻）による共同パトロールが日本海・東シナ海で実施されたことから全体としては内容が深化
- 水上艦艇の合同パトロールは既に6回目で連携要領も習熟したことから、今回は小規模で中露連携をアピールする象徴的なものとして実施した可能性有

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺における中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

8月は中国軍機延べソーティー498（内、中間線超えが延べ317）、中国艦艇延べ190隻、公務船延べ21隻が確認。

1日における軍用機最大確認数は57ソーティー、最大中間線超え47ソーティー、海空統合戦備警戒パトロールは2回であった。

【コメント】

艦艇の延べ活動隻数は今年で一番少なかった。中露共同演習や、東シナ海・南シナ海での訓練が活動に行われたため減少した可能性がある。

海警船の動向は6月以降の低調が継続。11~24日まで0隻であったが、16日の東シナ海での漁解禁に伴う中国漁船の取り締まりにより多くの海警船を運用した可能性がある。

（2）金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると8月24日に2回²、25日に2回³、計4回、中国海警4隻が金門周辺台湾制限水域への入域し、約2時間航行し出域した。

8月25日、海警東海分局報道官は「25日、福建海警が金門付近海域において法に基づき常態化法執行パトロールを実施した」と発表⁴。

（3）東沙周辺海域での動向

台湾海巡署によると、8月2~3日に東沙管轄水域で⁵、20日に東沙制限水域で⁶、26~28日に東沙管轄水域で⁷活動した中国海警3102に台湾東沙指揮部が対応し、離脱させた。

20日の活動時には中国漁船「粵惠來漁00859」も制限水域内に侵入し、21日に同漁船が東沙島7カリの位置でボートを下ろし違法操業しているのを拘留し、同漁船を離脱させた。

【コメント】

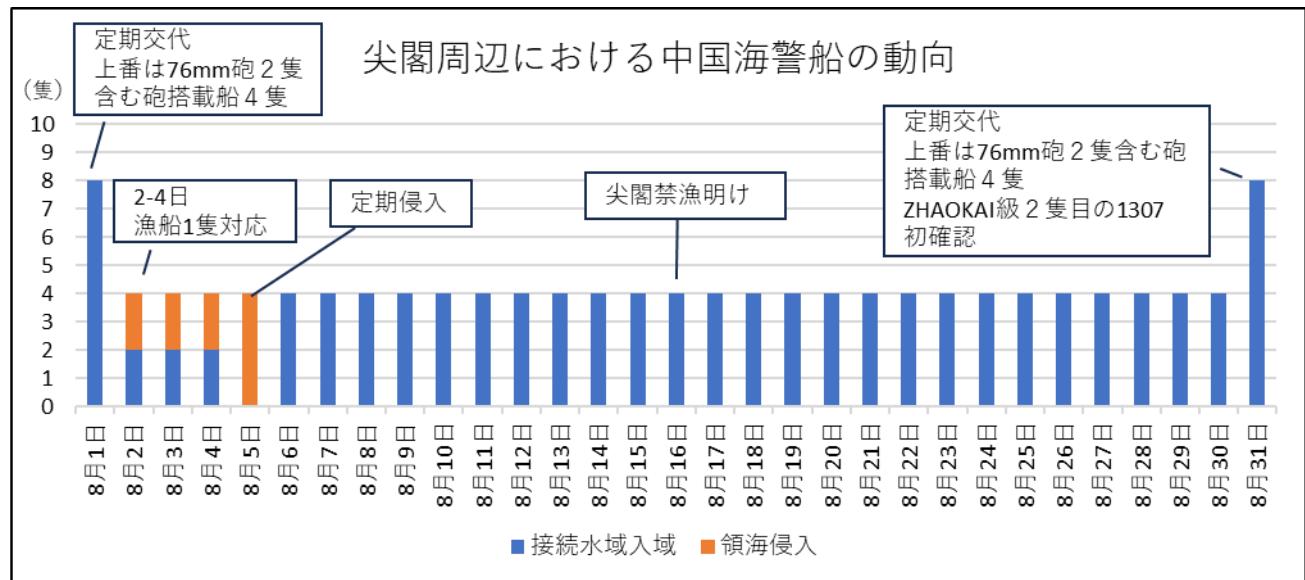
金門周辺海域での中国海警によるパトロールは月に複数回、4隻で台湾宣言水域に進入し2時間航行、というパターンで継続しており、8月も同様の活動が確認された。

東沙海域においても7月に引き続き、3回の海警船の活動が確認された。グレーゾーン時のハラスマントにより海巡署の法執行能力の消耗を企図していると思われる。更に20日には南シナ海海域での16日の漁解禁を利用し、中国漁船と海警船が連携して台湾側の対応状況を偵察した可能性もあり、禁漁期間にはいる来年5月までは漁船の活動を利用した中国海警の法執行活動などが活発化する可能性がある。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

8月も砲搭載船4隻による活動を実施した。

定期交代は1日及び31日、定期侵入は1回であった。

2~4日、尖閣領海内で操業している日本漁船1隻に対し、海警船2隻が対応して領海侵入を行った。これに関し8月4日、中国海警局報道官は「1~4日、日本の三加丸が釣魚島（筆者注：原文ママ）領海に侵入、中国海警は法に基づき必要な措置を採り警告駆逐した」と発表⁸。

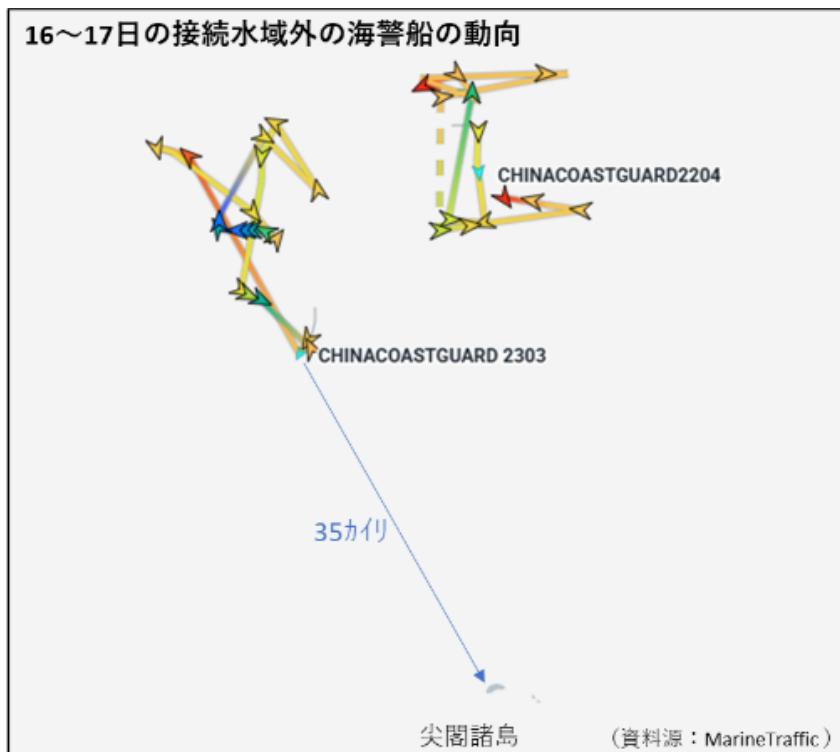
31日の交代により、海警1307が尖閣接続水域内で初確認された。ZHAOKAI級（海軍フリゲート艦仕様）としては5月の海警1306に続き、2隻目の確認である。

○ 中国の禁漁期間明け

8月16日に南シナ海から尖閣諸島周辺海域を含む海域で禁漁期間が明けた。

これに対応し、接続水域で活動している直属第2支隊の海警船4隻に加え、尖閣北西方接続水域外で同じ直属第2支隊海警船3隻が以下の期間活動した。

- ◇ 海警 2103 14~15日
- ◇ 海警 2204 15~17日
- ◇ 海警 2303 16~30日



【コメント】

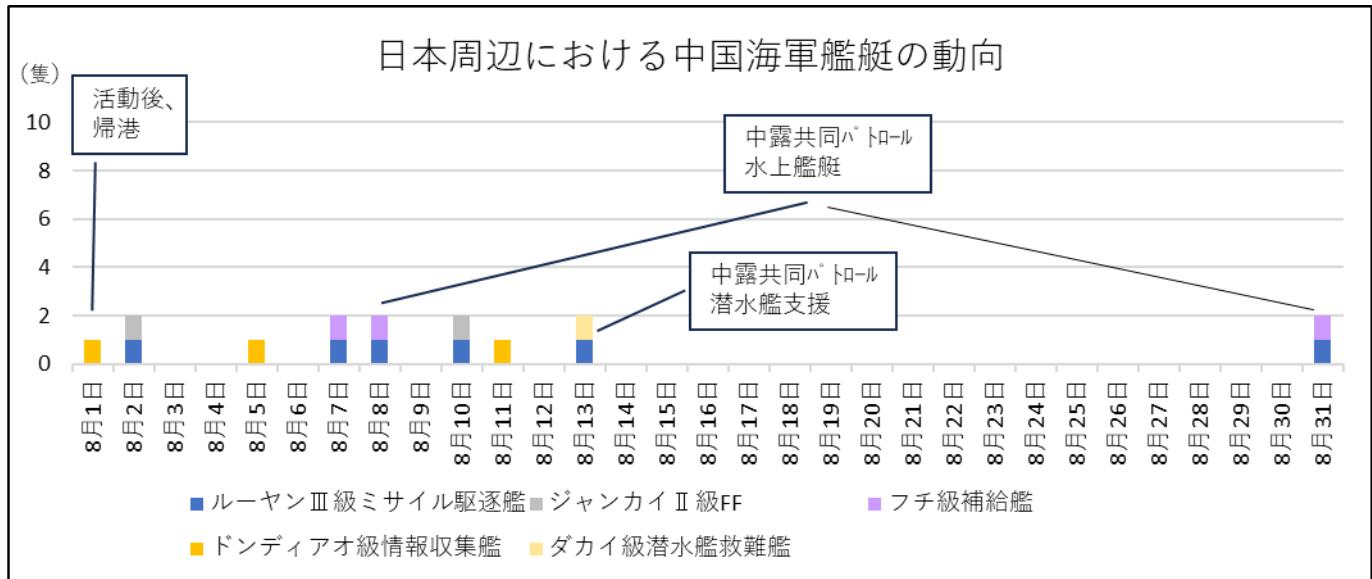
8月は1日及び31日に定期交代を行ったが、9月3日に中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年記念大会が予定されているため、早めに交代したのであろう。

16日の禁漁明け前後には、尖閣北西方の接続水域外で1~2隻の増援と見られる海警船が活動した。また、接続水域内で活動する4隻は、通常月後半から2隻づつ交代で行う玉環島での補給等を実施せず、常時4隻態勢を維持し、増援の海警船と併せ、活動した。

2024年8月16日前後はAISで確認できた増援は1隻であり、玉環島での2隻づつの補給等も実施されていることから、本年は昨年に比し尖閣周辺での中国漁船に対する取締りを強化できる態勢をとった。悪化する中国経済や9月3日の国家行事実施を前に、日本との緊張が高まるのを避けた可能性がある。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



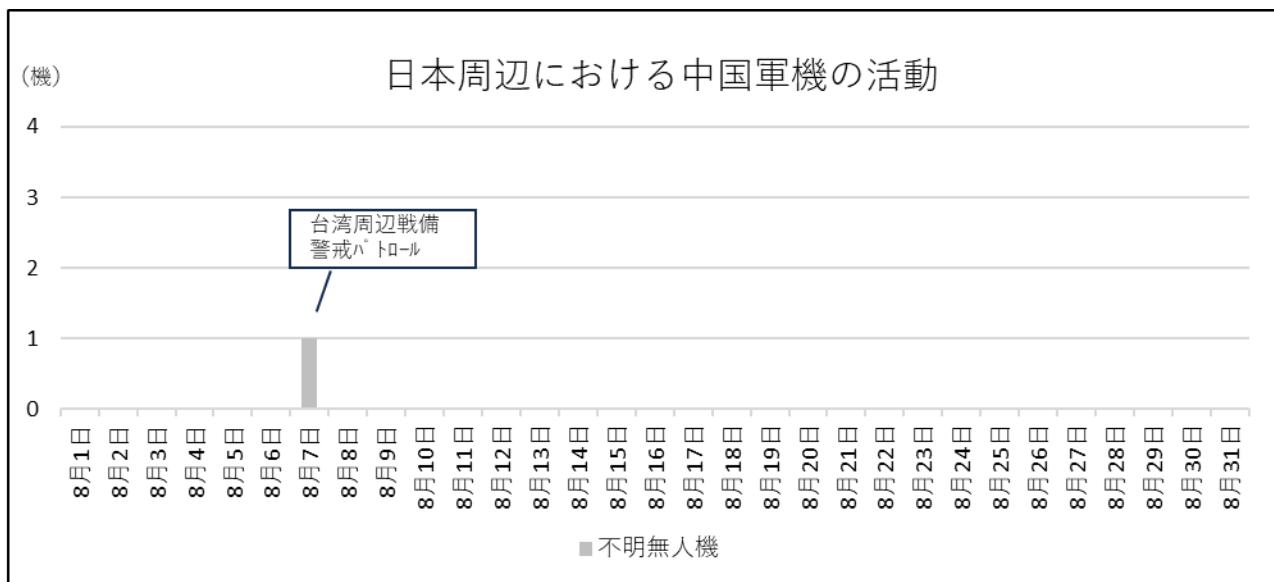
(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 15 隻の活動が確認された。

うち、8 隻は中露海軍共同パトロールであり、水上艦艇は 7~8 日に宗谷海峡を通過して西太平洋に進出し、31 日に沖宮間を通過して東シナ海方向へ航行し、日本の太平洋側を周回する形をとった。

2 日、5 日にミサイル駆逐艦・フリゲート・情報収集艦が太平洋に進出し、10 日、11 日にそれぞれ東シナ海へ航行し、帰港したと見られる。連携して太平洋上での監視・情報収集を実施した可能性がある。

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 1 機の活動が確認された。

台湾周辺戦備警戒パトロールに参加した無人機であった。

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 歴史の記憶なくして平和の基礎なし⁹ 中国大学 魯東紅 解放軍報 20280806

今年4月の国会議員70名以上の靖国参拝は日本政治家の軍国主義の歴史に対する間違った態度である。南京大虐殺は日本軍の中国侵略戦争で最も残酷な罪の1つである。731部隊の暴行も然り。慰安婦問題も日本の歴史修正主義の焦点である。日本は歴史を歪曲するだけでなく、広島・長崎原爆投下や東京大空襲、神風特攻隊等の記念日を利用して、被害者の立場を強調し、戦争加害者であるという歴史的責任を回避しようとしている。

○ 日本はタリスマンセイバーを利用し軍事的影響力を拡大¹⁰

中国国際問題研究院米国所副研究員 孫文竹 解放軍報 20250807

日本が7/13-8/4に米豪主催のタリスマンセイバー2025に参加。日本は2015年から6回参加しているがその規模が拡大しており、国外の演習を利用し攻撃的な軍事力を教化しているのは明白だ。

今年は中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年に当たる。日本は歴史の罪を深く反省し、歴史の教訓を真摯に汲み取り、軍事安全保障分野における言動を慎み、冷戦思考を捨てなければならない。

○ 「南京写真館」「東極島」等の映画上映について¹¹ 国防部報道官記者対応 20250808

今日、ますます多くの人々が映画やテレビを通して、日本軍国主義の非人道的な残虐行為と、中国と世界の人々が手を携え、日本のファシズムと闘った英雄的な闘争について知り、平和がいかに苦難の末に勝ち取ったものであるかをより深く理解するようになった。ますます多くの世界の友人が、日本軍の残虐行為を暴く歴史的証拠を無償で公開している。この搖るぎない証拠を前に、第二次世界大戦の歴史を歪曲したり、侵略戦争を美化しようとするいかなる試みも失敗に終わるであろう。

血塗られた教訓を忘れてはならず、歴史的悲劇を繰り返してはならない。今年は、中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年にあたる。中国軍は抗日戦争の偉大な精神を継承・推進し、さらに強力な能力とより信頼できる手段で国家の主権・安全・発展利益を守っていく。

○ 日本は教科書を改ざんし、公然と歴史的正義に挑戦¹²

中国大学 魯東紅 解放軍報 20250813

本年4月、日本全国の中学校で新しい歴史教科書が採用されたが、戦争に関する記述で3つの大きな有害な傾向が認められた。

1つ目は「南京大虐殺」を「南京事件」と呼称するような主要な事件の曖昧化

2つ目は「日中戦争」と「太平洋戦争」を別々に記述するような戦争全体像の分断化

3つ目は政治的偏向により公正客観的に歴史の真実記述しない教科書全体の右翼化

このような問題の一因は日本独自の教科書検定制度にあり、第2次世界大戦に関する言論操作により教科書が右翼的歴史認識を浸透させる温床となっている。

○ 日本が宇宙軍事化を加速 航天工程大学太空安全研究中心¹³

王晓艷 豊松江 解放軍報 20250814

最近、防衛省は初の「宇宙防衛大綱」を公表した。これは日本にとって初の体系的な宇宙軍事戦略文書であり、宇宙安全保障政策の大きな転換を示すものである。日本は同指針で、いわゆる「中露の宇宙脅威」を誇張し、「防衛」を名目に宇宙の軍事化を進め、自らの軍備拡張の口実を求める、地域の戦略的安定を損ない、世界の宇宙安全保障を脅かしており、国際社会に深刻な懸念を引き起こしている。

今年8月15日は、日本の敗戦と無条件降伏から80周年にあたる。第二次世界大戦の敗戦国として、日本は平和憲法を堅持すべであるのに、反ファシズム世界戦争勝利80周年というこの重要な時期に、軍備緩和を加速させ、国際社会の平和的発展への期待から大きく逸脱している。宇宙の平和利用を堅持し、宇宙の兵器化と軍備競争に反対することによってのみ、宇宙の安全保障と開発を効果的に守ることができる。

○ 強軍戦備が平和を守る¹⁴ 伍徳順 31638部隊 解放軍報 20250815

1945年8月15日、日本が無条件降伏を宣言し、中国人民は抗日戦争で偉大な勝利を収めたが、日本のファシズムは中華民族に計り知れない苦しみを与えた。南京大虐殺で失われた30万人以上の罪なき魂、生物兵器による残忍な被害、慰安婦が受けた肉体的・精神的な屈辱、中国人労働者が受けた非人道的な扱い、中国の半分に刻まれた銃弾の傷跡、日本軍と戦った3500万人以上の兵士と民間人の犠牲…。

今日に至るまで、日本の右翼政治家や一部メディアは、日本軍国主義の犯罪を繰り返し美化し、あるいは認めようとしない。平和と正義を愛する人々は、こうした誤った言動に警戒を怠らず、断固として反対しなければならない。

9月3日、人民軍は、平和・正義・威容の軍として党と人民の検閲を受ける。将兵は抗日戦争の精神を力強く継承し、常に正義のため、平和のため、そして人民のために戦う覚悟を持ち、祖国の安全と人民の平和な生活を守るという神聖な責務を誠実に果たし、世界平和の維持という使命と責任を体現しなければならない。

○ 日本が平和憲法を骨抜きにし、軍備拡張することに警戒¹⁵

超雅楠 陳岳 軍事科学院 解放軍報 20250815

本年8月15日は日本無条件降伏80周年である。しかるに平和憲法を骨抜きにし、戦後体制からの脱却を図り、その軍国主義復活に国際社会は重大な懸念を有している。

中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年を機に、アジア隣国と国際社会はこれに強く警戒しなければならない。

○ 日本は軍事安全保障領域で慎重になるべき¹⁶ 国防部報道官記者対応 20250815

近年、日本は防衛費を大幅に増額し、艦艇の空母化を進め、長距離ミサイルなどの攻撃兵器を開発するなど、危険な軍備拡張路線を推し進めている。日本が平和的発展へのコミットメントを堅持し、軍事・安全保障分野で慎重な姿勢を保ち、実際の行動を通じてアジア近隣諸国と国際社

会の信頼を獲得するよう促す。

○ 日本右翼が軍国主義の靈魂を呼び戻すことに警戒¹⁷ 王夢傑 解放軍報 20250819

本年 8 月 15 日は日本無条件降伏 80 周年である。石破首相は A 級戦犯を祀る靖国神社に祭祀を奉納し、一部の大蔵や国会議員は参拝を行った。これら一連の行為は日本右翼勢力の軍国主義の歴史に対する大いなる間違いであり、戦争責任を回避しようとする悪辣な試みである。

○ 日豪武器貿易は危険な企み¹⁸ 軍事科学院 黄嘉瑜 葛亞維 解放軍報 20250820

豪が日本から護衛艦購入を決定した事は、両国の軍事協力を強化することであり、日本の戦後武器輸出規制を緩めることだけでなく、米がインド太平洋地域で主導する「輻輳連盟」を「網状対抗システム」に強化させ、陣営化を図るものだ。

中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年の年に日本は自らの歴史的罪の責任を顧みず、軍拡を加速している。

○ 米が日本の軍拡を容認している事は地域の平和と安定に重大な危害¹⁹

国防科技大学 張一尼 馬龍飈 解放軍報 20250821

米は日本の軍拡を容認し、インド太平洋戦略でのお先棒として利用しようとしているが、一旦日本の軍国主義が復活すれば、米もコントロールできず、自らその報いを受けることであろう。

○ 日米英軍事協力はアジア太平洋情勢を混乱させる²⁰ 解放軍報 20250821

8 月に日米英が F-35B を使用した訓練等を行った。F-35B を通じた協力は日本の軍拡を加速させている。

○ 日本が防衛を名目に宇宙を火薬庫にすることを警戒²¹ 解放軍報 20250822

日本は「宇宙領域防衛指針」を公表し、宇宙の脅威を口実に宇宙の軍事化を推し進め、地域の安全と平和を突き崩そうとしている。かつて自衛の名の下にアジア太平洋地域を戦火にさらしたことを忘れてはならず、今また宇宙を火薬庫としようとしていることを容認してはならない。

○ 日本の攻撃型 UAV 配備は地域の平和と安定に脅威²² 解放軍報 20250827

日本は 2026 年度予算で無人機大規模配備に 1000 億円以上を計上すると報じられている。攻撃型無人機の配備は平和憲法と専守防衛の原則に反し、地域の平和と安定に現実的な脅威である。

○ 日本の 9.3 軍事パレード不参加の呼びかけについて²³ 国防部定例記者会見 20250828

今年は中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年にあたる。悪は消滅したが、その有害な遺産は依然として残っている。日本に対し、歴史の罪を深く反省し、遺棄化学兵器の処理を迅速に進め、中国人民に清浄な土地を早期に返還するよう要求する。

○ 9月の日米共同訓練での岩国への米タイフォン配備について²⁴

国防部定例記者会見 20250828

近年、日本は「平和憲法」と「専守防衛」の公約を度々破り、危険な軍備拡張の道に邁進している。今年は、中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争の勝利から80周年に当たる。この特別な歴史的転換期において、日本は歴史から深い教訓を汲み取り、軍事安全保障分野における言動を慎まねばならない。

○ 日本が大型 UAV シーガーディアンの尖閣上空での運用開始について²⁵

国防部定例記者会見 20250828

釣魚島及びその付属島嶼は中国固有の領土であり、日本に対し、釣魚島上空の海空域における情勢を複雑化させないよう要求する。中国は引き続き有効な措置を講じ、国家の領土主権と海洋権益を断固として擁護する。

【コメント】

8月は9月3日に開催される中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年記念大会を前に、非常に多くの日本関連記事が掲載された。

いずれも日本の戦争責任を問い合わせ、反省を促して日本の防衛力整備及び同盟国・同志国との連携を妨害する意図をもったものである。解放軍報記者の記事のみならず、各種シンクタンクや部隊からの意見も幅広く掲載しているが論調は全て同じで、対日思考に関し、共産党が強い統制を行っている可能性がある。

5 南シナ海動向

○ 南シナ海海域パトロール²⁶

8月4日、南部戦区報道官が「3~4日、南部戦区海軍が南シナ海海域で定例パトロールを実施。比が域外国を引き込み南シナ海をかき乱し、所謂『共同パトロール』を実施し、地域の平和と安定を破壊している。」と公表。

○ スカボロー礁

◇ 比沿岸警備隊報道官はスカボロー礁周辺での中国海軍と海警船同士の衝突について8月11~13日の間、以下の通り公表²⁷。

◎ 8月11日

- ・早朝、比沿岸警備隊はスカボロー礁の比漁船約35隻に補給等のため巡視船3隻を派遣
- ・補給等の支援間、比巡視船と漁船は中国側から放水等の妨害を受ける
- ・スカボロー礁東約10.5カイで比巡視船を妨害していた中国海警船3104が中国海軍艦艇164(筆者注:ルーヤン3級駆逐艦・桂林)と衝突
- ・海警3104は損傷により航行不能
- ・比沿岸警備隊は、落水者の救助や負傷者の治療等の支援を申し出

◎ 8月13日

- ・比沿岸警備隊は航空機によりスカボロー礁付近の海洋状況把握を実施。この際、中国軍機J-15が20分以上に渡り危険な接近飛行を実施
- ・スカボロー礁周辺で海警船4隻と海上民兵船6隻が航行。衝突した海警船と海軍艦艇は不在

比巡視船に放水する海警3104(船首に人員)



衝突後の中国艦艇164

比巡視船との間で海警3104と中国艦艇164が衝突



衝突後の海警3104



(出典:4枚共Jay Tarriela比沿岸警備隊報道官X20250811)

- ◇ 8月11日、中国海警局報道官は「11日、比は多くの巡視船・公務船により、漁船への補給を名目に中国の採算の阻止と警告にも拘らず、中国スカボロー礁付近の海域に侵入した。中国海警は法に則り監視・阻止等の必要な措置を採り駆逐、プロフェッショナルかつ合法的な対応をした。」と公表²⁸。
- ◇ 8月13日、南部戦区海軍報道官は「13日、米駆逐艦ヒギンズが中国政府の許可なく中国スカボロー礁領海に侵入。南部戦区海軍は法に則り、監視・警告・駆逐した。」と公表²⁹。
- ◇ 8月29日、南部戦区は「8月29日、南部戦区は海空部隊によりスカボロー礁領海周辺海空域で戦備警戒パトロールを実施。」と公表³⁰。
- ◇ 8月29日、海警局は「29日、中国海警はスカボロー礁領海及び周辺区域で法執行パトロールを実施した」と公表³¹。

○ セカンドトーマス礁

中国海警局報道官は、「比が先日（筆者注：公表した画像では8月19日）、不法座礁船からボート2隻を航行させ、度重なる警告を無視し、プロフェッショナルでない危険な方法で中国海警船に接近し、意図的に当たり屋のような挑発行為を行った。」と公表³²。

海警船に接近する比ボート



（出典：中国海警局20250822）

【コメント】

比軍は8月3~4日、南シナ海で、インド海軍と初めての共同パトロールを実施した。比からは艦船2隻、インドからは3隻が参加。インド海軍の艦艇は、ミサイル駆逐艦INSデリー(D61)、補給艦INSシャクティ、対潜水艦戦フリゲート艦INSキルタン(P30)が7月30日にマニラ港に入港、調査船INSサンダヤク(ヤード3025)が8月1日に到着した。更にマルコス比大統領は、4~8日からインドを国賓として公式訪問し、両国関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げすることで合意した。

またスカボロー礁で中国公船同士が衝突した2日後の13日には、米海軍のミサイル駆逐艦がスカボロー礁付近で航行の自由作戦(FONOP)を実施した。

これらの南シナ海における比と連携した外国海軍の動向に対し、中国は海域パトロールや監視により対応を行った。

スカボロー礁で衝突した中国艦艇はルーヤン3級駆逐艦164は7500t、海警3104はジャンダオ級コルベット艦を改造した巡視船で1000t級、一方放水された比巡視船は「BRP Suluan(MRRV-4406)」で日本が供与した40m級多目的対応船であり、180t級である。

海警3104、BPR Suluan共に最高速度25ノットとされるが、小回りの利くBPRに対し、追跡放水していた海警3104と威嚇の為接近航行をしていたルーヤン3級164が舵を誤り衝突したのであろう。

衝突前の海警3104の船首には人員が確認されていたが、衝突後には船首は大きく損傷しており、落水した可能性がある。にも拘らずルーヤン3級164はBPR Suluanの追跡を継続しており、海警と海軍の連携不足が窺える。

2日後の13日の同海域には海警船4隻と海上民兵船6隻が確認されている。落水した人員が行方不明となり捜索を実施していた可能性がある。

中国海警局は同事案に対し、「中国海警は法に則り監視・阻止等の必要な措置を採り駆逐」といつもと同様の談話を発表をするのみで衝突については一切コメントしていない。死傷者がでている可能性が大きいにも拘らず、国家の重要行事である中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年記念大会前に、比にしてやられたとの印象を与える不祥事を国内に対して隠蔽しようとしている可能性がある。

6 軍事交流

(1) 軍事交流

○ 豪国防軍司令官の訪中³³

8月13日、劉振立・中央軍委統合參謀部參謀長は、訪中したジョンストン豪国防軍司令官と会談した。双方は、両国両軍関係、国際・地域の安全保障情勢、共通の関心事項について踏み込んだ意見交換を行い、国防分野における対話を強化し、両軍関係の発展を促進することで一致した。

○ シンガポール国防次官の訪中³⁴

8月19日、董軍・国防相は訪中したチャン・ヘンキー・シンガポール国防次官と会見し、防衛協力強化等について話し合った。

(2) 共同訓練

○ 中・モンゴル国境部隊共同訓練「辺防協力-2025」³⁵

先ごろ（筆者注：8月中旬までに）、中・モンゴル国境部隊共同訓練「辺防協力-2025」を新疆イリ・ハザク自治州で実施。国境を超える違法犯罪活動への対応をテーマに共同国境管理能力を強化。

【参考文献】

1 解放軍報 20250821

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250821/7316551ccd39775634073f3179728985.pdf>

2 海洋委員會海巡署 20250824

<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165779&ctNode=650&mp=999>

3 海洋委員會海巡署 20250825

<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165787&ctNode=650&mp=999>

4 中国海警局 20250825

https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202508/t20250825_2824.html

5 海洋委員會海巡署 20250804

<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165630&ctNode=650&mp=999>

6 海洋委員會海巡署 20250822

<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165801&ctNode=650&mp=999>

7 海洋委員會海巡署 20250828

<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165801&ctNode=650&mp=999>

8 中国海警局 20250804

https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202508/t20250804_2809.html

9 解放軍報 20280806

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250806/a3ef5733158f279d93e3bd5fd331ec3d.pdf>

10 解放軍報 20250807

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250807/9c0201a3b1c3a4aa7dad3f2e090729d0.pdf>

11 国防部網 20250808

http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16401433.html

12 解放軍報 20250813

http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-08-13&paperNumber=04&articleid=961174

13 解放軍報 20250814

http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-08-14&paperNumber=11&articleid=961240

14 解放軍報 20250815

http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-08-15&paperNumber=02&articleid=961309

15 解放軍報 20250815

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250815/bfb3fb76551f6177252faa03e2001865.pdf>

16 解放軍報 20250816

http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-08-16&paperNumber=03&articleid=961379

17 解放軍報 20250819

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250819/c1789a6e6d25522e5e1195de6453afbb.pdf>
18 解放軍報 20250820
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250820/99aa15833f603948c5baa5d5d1ea4d72.pdf>
19 解放軍報 20250821
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250821/f0951b5a916e7a3d0e4e2ec72d24f084.pdf>
20 解放軍報 20250821
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-08-21&pageNumber=11&articleid=961713
21 解放軍報 20250822
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250822/060978f40879e1912724b2a54b3eda25.pdf>
22 解放軍報 20250827
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250827/ac670e1073ccb6f6336132c4265f42d7.pdf>
23 · 24 · 25 国防部網 20250828
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16405424.html
26 南部戰區微博 20250804
<https://weibo.com/u/7468777622?lpage=profileRecom>
27 Jay Tarriela Philippine Coast Guard Spokesperson on West Philippine Sea Concerns 20250811
<https://x.com/jaytaryela/status/1954734522282733749>
28 中国海警局 20250811
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202508/t20250811_2818.html
29 国防部網 20250813
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16402329.html>
30 国防部網 20250729
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/yw_214049/16405713.html
31 中国海警局 20250829
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202508/t20250829_2828.html
32 中国海警局 20250822
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202508/t20250822_2821.html
33 環球網 20250813
<https://mil.huanqiu.com/article/4NtYljrcRhM>
34 国防部網 20250819
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16403339.html>
35 解放軍報 20250815
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-08-16&pageNumber=03&articleid=961379

中国軍事動向月報 2025年8月

2025年9月9日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。